特別支援（知的）学級　第3学年国語科「山小屋で三日間すごすなら「A話すこと・聞くこと」

出し合った考えを視覚的にわかりやすく提示する支援により，考えを比べたりまとめたりしながら話し合う力を育てる

岳下小学校　平山 真由美

Ⅰ　単元構成の工夫

本単元は，「山小屋で三日間すごすなら」どんな持ち物を持って行くかを話し合う。まず，考えを出し合う“広げる”話し合いをし，次に，考えを集約し目的に応じて“まとめる”話し合いに進んでいく。そこで，教科書の挿絵や野外活動で使用する道具のイラストを提示したり，決めることの空枠を示したりすることで視覚的に話し合いの目的や内容を意識させていく。さらに，話し合いに合わせて，貼ったカードを動かす等をして，話し合いの内容が見てわかるようにする。これら支援を通して友だちや教師と話したり聴き合ったりすることに興味や意欲を持ちながら参加して，みんなで決めることができたという経験をさせたい。

児童の実態

朝の会や帰りの会などで，自分がしたことやその感想を簡単な話型で話すことはできるが，問いに応じて受け答えをすることは難しい。また，意欲的に発言できるが，友だちの発表に耳を傾けたり聞き続けたりすることは難しいことが多い。また，視覚的な情報で理解が進む一方，その情報量が多いと混乱してしまう。

単元を通して育成したい子どもの姿

自分の考えを話したり，友だちの考えを聞いて，その考えを比べたりまとめたりする話し合いを通して“みんなで決めることができた”という達成感を感じることができる姿。

「単元構成の工夫」における ○成果と●課題

○　挿絵・イラスト・枠等の視覚的な情報を参考にして，自分の考えをもち，話し合いに参加することができた。

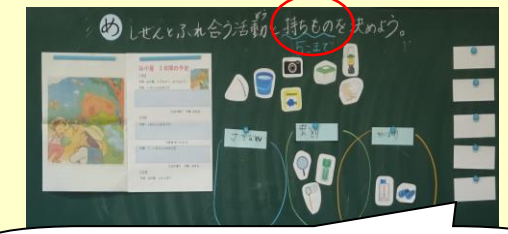
○　「必要性」と「兼用できるか」を視点として明確に提示することで，絞り込む話し合いができ，みんなで決めることができたという達成感を感じた。

●　児童が発言し話し合いが進む中，その内容を理解することが難しくなり黙ってしまう児童が出た。発言内容と話し合いの進行状況の理解を促す手立てを検討する必要がある。

学習計画（総時数３時間）

時	場面	学習活動（夢中になって学んでいる姿	資質・能力
1	見通す 考える	話題（しぜんとふれ合うなら，どんな物を持っていきたいか）を決める話合いを行うことに興味をもつ。 「しぜんとふれ合う活動」・「持っていきたい物」を考えて短冊に複数書き出す。	目的を意識して，友だちや教師と一緒に話合いに参加することに意欲をもつ。（主）
2	対話する 考える	短冊（カード）をもとに考えを出し合う。友だちの話に興味を持ち聞いている。	相手を見て聞いたり話したりしながら，話合いに参加しようとしている。（主）
		短冊（カード）を動かしながら，考えを比べたり分けたりしている。	友だちや教師と一緒に考えを比べたり分けたりすることができる。（知・技）
3（本時）	対話する 振り返る	「しぜんとふれ合う活動」・「持っていきたい物」を，友だちと話し合って決めようとしている。	決めることを意識しながら友だちや教師と一緒に話合いを進めることができる。（思・判・表）
		決まったことを確認し学習を振り返る。	

Ⅱ　コーディネートの工夫　＜本時のねらい＞みんなで話し合い，「しぜんとふれ合う活動」や「持っていきたい物」を決めることができる。

	学習活動・内容（Ｔ主な発問Ｃ児童の反応）	＜コーディネートの実際＞	＜コーディネートの改善＞
課題設定	１　本時の学習課題を捉える。 （１）前時に整理した短冊を見直す。 （２）本時のめあてをつかむ。 「しぜんとふれ合う活動」と「持っていきたい物」を話し合って決めよう。 （３）課題解決の見通しをもつ。		
課題解決	２　考えを出し合い，短冊を貼る。 ３　「しぜんとふれ合う活動」３つ，「持っていきたい物』５つを話し合いで決める。 	２　考えを出し合い，短冊を貼る。 児童から持ち物は，全部で１２個提案された。貼り出されたイラストを見て軍手と虫かごが重複しているに気付いた。 T：「持ち物は何個になりましたか。」 C:「７個。」 C:「分かった。Cちゃんグループは，そのグループでやればいい。」 T:「違うよ。みんなで５個の約束だったよ。」 「持って行ける持ち物は５個」という話合いの条件が十分に共有されていなかった。 児童B:黒板のイラストを見ながら話を聞いてはいるが反応がうすく，発言もうなずきもなかった。 ３　「しぜんとふれ合う活動」３つ「持っていきたい物」５つを話合いで決める。 ＊児童Cは自分で提案したバケツも持っていきたいと主張し持ち物を絞り込むことが難しくなった。 T:「バケツと虫かごの違いは何かな。」 C:「水入っていなければいいんじゃないの。洗って使えばいいんじゃないの。Bちゃんの虫とりに使って，そしたら洗ってCちゃんの魚とりに使えばいいんじゃない。ふたをとればね。」 T:「ということは，これ(バケツ)がなくても，(バケツに)限らなくてもいいってこと。」 C：「うん。」（児童A:拍手）（児童C:うなずく）	２　「持っていける持ち物は５個」を見て確認できるように工夫する。  条件に○を付けて強調し，枠上に「持ち物」枠隣に「①②③④⑤と記し条件を把握しやすくする。 ３　“言葉でのやりとり”が苦手な児童Bが話し合いに参加できるように，視覚的情報を加えて支援する。 T：「Bさん，ここを見てごらん。」 （話題となっている持ち物を指さす。） T：「Bさん，Aさんは虫かごをバケツ代わりに使えるんじゃないのかなって言っているけど，どうかなぁ。」 （実際に虫かごのふたを取ってみせる。） 児童B：「下の部分には，水が入れられる。」 ４　児童の振り返りを生かし，児童の取り組みを称賛する。 児童A:「話をして楽しかったです。」 児童C:「あたしは，みんなで考えを意見しました。楽しかったです。」 T:「友達の話を聞いて自分の考えも話すことができました。話し合い，大成功です。」 児童B:「使えるか使えないかを考えました。」 T：「そうだったね。持っていける荷物は5個までだったから，違う活動でも使えるか使えないかを考えることが必要だったね。」 自分から話すことが苦手な児童もノートに書くことで思考を整理し，発言に備えることができる。
振り返り	４　本時のまとめをする 『しぜんとふれ合う活動』魚つり・虫とり・木のぼり 『持っていきたい物』 つりざお・魚のえさ・カメラ・虫かご・軍手 振り返りを書く。	４　本時のまとめをする。 【児童の振り返りの記述】 児童A：はなしをしてたのしかった。 児童B：つかえるかつかえないかをかんがえて楽しかった 児童C：あたしは，みんなでかんがえをいけんしました。たのしかったです。	

「コーディネートの工夫」における　○成果と●課題

○　視覚的な情報を提示し，進行に合わせてそれを移動させることで，話題に関して自分の考えをもったり，目的や見通しをもったりしながら話し合いに参加することができた。

●　視覚的情報の量や質，活用のタイミング等が実態に合っているか，ことばでのやりとりだけで十分理解できているか，意志表出の方法は適当か等，児童の理解特性を考慮した手立てを講じることで，さらに児童が主体的に話し合う姿に繋がると考える。